

平素より、患者さんのご紹介をいただき、有難うございます。
 当院では、予約制で診察を行っております。
 患者さんのご紹介に際しましては、紹介状をご用意いただき
 お取りいただきますよう、お願い申し上げます。

事前に必ず予約を

医療機関からの予約は 地域連携直通電話・FAX へお願いします。
 TEL: 047-458-6543 FAX: 047-458-6545

- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30
- ※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 時間外の場合は FAX を送信してください。至受付時間内にお返事いたします。

患者さんからの予約は 電話予約センター にて承ります。
 予約センター電話番号: 047-458-6600 (患者さん専用)

- ・ 最初に音声ガイダンスが流れます。紹介状をお持ちの患者さんは 1 を押していただきます。
- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30
- ※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 予約時間等の変更時にも、必ず電話にてご連絡ください。

■検査連携について

- ・ 検査連携は、医療機関からの依頼のみの受付になります。直接、患者さんからの受付は出来ません。
- ・ 連携検査: CT、MRI(単純)、RI、X-P、マンモ、骨密度、セファロの画像検査のみ

■やちよ夜間小児急病センターについて

- ・ 専用電話番号: 047-458-6090 (医療相談は行っておりません)
- ・ 受付時間: 18:00～23:00
- ※予約は必要ありませんので、直接ご来院ください。

●多職種参加のサークル紹介: **八千代ランナースハイ**

八千代ランナースハイは八千代医療センター職員の親睦を深めることを目的に「走って笑って楽しんで」をモットーとして3年前に設立されました。名目会員数は80名を超えていますが、実質活動者数は30名ほどです。普段全く走っていない人からマラソンブリークまで、職種も医師・看護師・検査技師・事務と多彩です。

春の駅伝大会、秋の九十九里合宿(といってもパーベキューがメイン)、冬の駅伝&マラソン大会が活動の中心です。みんな思い思いに走り、走った後のお風呂&打ち上げをこよなく愛しています。全くのごろ寝生活者がいつの間にかフルマラソンを完走するという、みんな元気になっていくクラブです。

12月には新川で八千代ロードレースが開かれます。みんなで集まり、ベストを尽くし、美味しい豚汁を食べています。ちょっとでも目立ちたいと、オレンジや赤のランナースハイTシャツを作り、タスキをつないでいます!

走ることは、一番安くて、いつでもできて、気持ちも明るくなる、最もお手軽でハッピーな運動です。マラソン大会で見かけたら、ぜひ声をかけてください。

(会長:呼吸器外科長 関根 康雄)

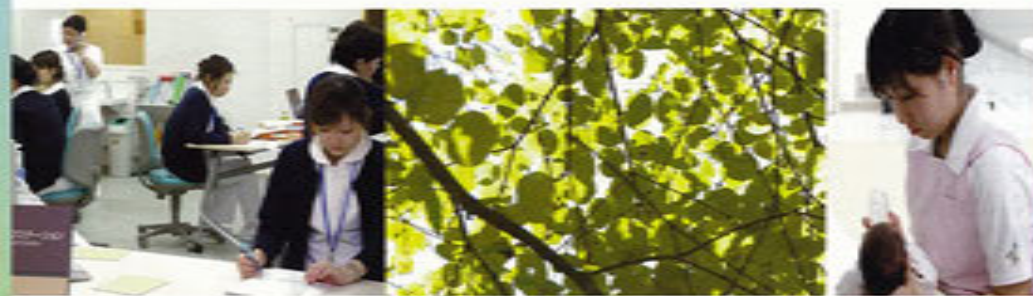


〒276-8524
 千葉県八千代市大和田新田 477-96
 (代表)047-450-6000
 医療支援室 TEL 047-458-6543
 FAX 047-458-6545

理念: 地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

～基本方針～

- ・ 本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- ・ 患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- ・ つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- ・ 患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- ・ 中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。



看護局から

皆様にはいつも暖かいご支援・ご指導を賜り、心より感謝申し上げます。八千代医療センターに転任し1年半が過ぎようとしております。この4月からは副院長と看護局長を兼務しております。

今回の医療支援ニュースでは看護局の紹介を致します。

平成20年4月の看護師数は278名でしたが平成25年4月には約100名増えて377名になりました。ここ2年間は4月に約50名の新人看護師が入職しております。いかに短期間で基本的な知識・技術・態度を身につけるかが大きな課題です。OJTを中心に看護局教育委員が中心になり、なるべく時間内に色々な研修を組み入れています。今年の新入職員も入職し4か月経ち、看護学生の顔がだいぶひきしまり、新入職員の顔になりつつあります。

八千代医療センターの今後の課題は、増床計画の推進、手術室の充実と小児心臓手術の開始、来年2月の病院機能評価の受賞があります。新入職員を育てつつ課題に取り組み、なおかつ質の高い看護が提供できるよう計画的に取り組んでおります。

そのために看護部長・看護師主任が中心になり、看護局方針でもある、エキスパートナース・専門看護師・認定看護師をリソースとして活用しています。今回は紙面をお借りしてこれらの10領域11名の看護師の活動内容をご紹介します。

是非ご活用いただきたく宜しくお願い致します。また、あらたに5月から半年間の認定看護師教育コースに4名の看護師が参加しており、10月から1名の看護師が参加予定で、終了後の活躍を楽しみにしております。

このように、当院では専門に特化した看護師の育成に力をいれておりますが、多くの看護師は大学病院でジェネラリストを目指しています。エキスパートナース・専門看護師・認定看護師とともに、学校法人の看護職キャリア開発支援センターも活用しつつ、まずはジェネラリストの育成を行い、転職しても「さすが女子医大で働いていた人は違うわね」といわれる看護師を育てていきます。

八千代医療センターはかかりつけ医と協力して、患者さんの健康を支える「地域医療支援病院」です。どうぞ今後ともご協力・ご支援宜しくお願い致します。

副院長 看護局長 鎌倉里美

八千代医療センターで活躍する専門看護師、認定看護師を紹介します。



＊専門看護師、認定看護師とは？ 認定看護師は5年以上の臨床経験を有し、一定期間の研修を経て日本看護協会の認定資格試験に合格した看護師です。熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践しており、「実践・指導・相談」を役割としています。専門看護師は、大学院で専門分野に関する学習を2年間修了し、臨床において卓越した看護実践を求められています。さらに、医療チーム間の「調整」や「倫理調整」「研究」を行っています。当院ではスペシャリストによる講習会を定期的で開催しており、一部、地域の看護職の皆さまにも公開しています。当院ホームページ「医療関係者のみなさまへ」をご覧ください、医療支援室までお申し込みください。(http://www.twmu.ac.jp/TYMC/)

『感染管理』認定看護師

看護師長 高橋 俊子

2009年の新型インフルエンザの大流行に伴い、感染の問題に対する危機感や感染対策への意識が急速に高まりました。当施設の感染対策は病院組織の独立した部門に位置づけられています。感染管理専従者として、組織横断的に活動し、院内の感染を防ぐことを目的としています。来院されるすべての患者・家族・職員の安全と安心の確保を目指し、標準予防策をはじめ科学的根拠に基づいた感染管理を実践しています。2012年から、近隣の4つの医療機関と連携し情報の共有や相互ラウンドを実施しています。地域医療施設における感染対策強化と改善を目的に活動しています。



院内ラウンド中



化学療法室・調剤室にて

『がん看護』専門看護師

江川 知子

二人に一人は「がん」になる時代となり、がん医療における看護の専門性が求められています。がんになっても、心穏やかに安心して過ごせるように、院内に限らず地域医療機関と連携して支援致します。また、患者さん・ご家族に信頼される看護師の育成の為に、専門知識・技術を提供致します。

『がん化学療法看護』認定看護師

森戸 陽子

がん化学療法看護認定看護師として、①患者さんとその家族に化学療法に対する正しい知識を提供すること ②副作用に伴うセルフケアへの提案と苦痛の軽減を図ること ③治療の経過で迷いや不安が生じたときに彼らに寄り添い、治療に対する意思決定を支援すること ④医療チームの一員としてメンバーシップを発揮すること を目標に活動しています。

『手術看護』認定看護師

高橋 典子

同手術期にある患者さんは、手術・麻酔により様々な身体的・精神的ストレスを生じています。患者さんを中心とした医療チームの中で、患者さんの不安や苦痛をできるだけ軽減できるように、また擁護者・代弁者としての役割を果たせるよう努めると共に、他職種と協働して、質の高い手術医療が提供できるよう、チーム調整およびスタッフ教育に努めています。



手術前の患者ケア

『集中ケア』認定看護師

近藤 直子

“どんな場所においても、どんな状態でも、その人がその人らしくあることが出来る”をモットーとしています。ICUという場所柄、治療が優先になりがちですが、看護の力を最大限に発揮できる場であるとも感じています。クリティカルなステージにある患者さんとそのご家族を対象とした看護を専門的な視点を持って実践します。

- ・人工呼吸器装着中の呼吸管理や気道のケア
 - ・口腔ケア
 - ・早期離床のための環境調整
 - ・急な入院や病気による心配や不安など
- より良い状態で元の生活に戻れるよう、お手伝いさせていただきます。



ICUにて



ストーマ外来にて

『皮膚・排泄ケア』認定看護師

児玉 操

「皮膚・排泄ケア」はストーマ・創傷・失禁と領域は広く、患者の身体的・精神的・社会的問題を的確に把握し専門的知識・技術を用いた看護ケアを提供しています。また、当センターはストーマ外来を併設し退院後も新生児～成人のストーマケア、訪問看護師と連携し在宅での「皮膚・排泄ケア」分野の患者のフォローを行っています。

『皮膚・排泄ケア』認定看護師

渡邊 朋子

ストーマ分野に関しては、入院中だけでなく、ストーマ外来においても自宅療養される患者さんのサポートを行っています。また、創傷分野については褥瘡や失禁に伴う皮膚トラブルなどの相談が多く寄せられており、創傷治療過程を踏まえ、それぞれの患者さんの状態に合ったケア方法を提案しています。患者さんが安心して自分らしい生活を送れるように、地域全体でサポートしていけたらと思っています。



入院中の患者の褥瘡予防に努めています



NICUにて

『新生児集中ケア』認定看護師

看護師長 瀬戸 智美

新生児ユニットには、主に早産児、低出生体重児、先天性疾患の児が入院しています。新生児は言葉を話しません、言葉以外の色々な方法で表現しています。その表現を読み取り、個性のある看護を目指しています。新生児が早くお家へ帰れるように、ご家族とともに看護ケアを行っています。



明るい雰囲気の小児科トリアージ室にて

『小児看護』専門看護師

村松 三智

子どもたちが健やかに成長・発達していけるように、乳幼児精神保健の理論に基づいた親子支援を行っています。育児に関する相談のほか、病気を抱えた子どもの家族からのご相談を受け、家族内の調整を行ったり、子どもの権利を守るための調整をしています。子どもと家族の力が最大限に引き出せるような看護の提供を目指し、多職種と連携して取り組んでいます。

『小児救急看護』認定看護師

今村 めぐみ

現在は小児外来・小児救急外来で勤務しています。「小児救急看護」というとクリティカルな分野を想像されがちですが、内容は育児支援や療育支援、自宅での養育環境のサポートにも渡ります。来院する子どもの緊急度の見極めをして診察の優先度を定めるトリアージを取り入れた外来運営の確立・整備の活動もしています。



『糖尿病看護』認定看護師

田中 景子

糖尿病看護認定看護師は、糖尿病を持ちながら生活する人たちが「生活者」が糖尿病と向き合いながら、療養生活を送ることができるように支援することが仕事です。また、生活者とのように向き合ったらいいか、どのようにアプローチしたら効果的かなどの、スタッフの困りごとの相談、糖尿病のチームマネジメントやネットワークづくり、効果的な糖尿病教室の企画・運営などのケアシステム立案も行います。糖尿病に関するすべてのご相談に対応できるように日々精進中です。一緒に糖尿病ケアを盛りたてていきませんか？



インシュリン注射手技を講習中